

# 「いじめをなくしたい」という 子どもの願いをどう受けとめるか?

市は京都精華大学  
准教授の住友剛さんから、  
子どもの人権についてお聞  
きました。8月は人権強調月  
間です。「いじめ」をなくし  
たいという子どもたちと、それに応え  
るおとなの支援のあり方をみん  
なで考えてみましょう。  
◆問い合わせ 人権啓発課  
(八幡人権・交流センター  
☎981-3127)



京都精華大学准教授 住友 剛

住友 剛(すみとも・つよし)  
京都精華大学人文学部准教授。  
専門は教育学で、教育制度、政策、  
地方自治体の子ども施策などを研  
究。著書は『はい、子どもの人権  
オンブズパーソンです』『日本近  
代公教育の支配装置』(共著)など。

## 8月は人権強調月間

### 高校生の悩み

「いじめの問題を中心とした人権学習で、ある公立高校1年生の生徒たちと交流する機会があった。その際、今の高校生たちが「いじめ問題」に限らず、どういつまで悩んだり喜んだりしているのかを知りたくて、交流の前に作文を書いていただいた。その作文に書かれた内容は、子どもの人権についての研究・実践活動に取り組む私にとって、今後の自分の活動のあり方を考える上で、とても大切な示唆を与えてくれるものになった。この場をお借りして、作文を書いけてくれた生徒たちと、それをサポートしてくださった教職員のみならず、あらためて感謝の気持ちを伝えておきたい。

### 学校の「いじめ」

さて、多くの生徒たちの作文からは、中学校から一層難しくな

って、多くの生徒たちの作文からは、中学校から一層難しくな



いた「いじめ」をやめることができた。もしもそういつかであれば、中学生の時でも人間関係や生活環境をうまく調整できれば、「いじめ」を防いだり、発生しても早急に対処したりすることができないではないか。この内容の作文からは、そんな期待を抱いたのである。

### 遊びのつもり

そして、ある生徒の作文には、中学生のころ自分は「いじめ」をしていないが、「いじる」という感じで誰かを遊びのつもりでからかったことがあったこと、自分のクラスには不登校の子が多かったこと——などを書いてきた。この作文からは、一方で「いじめ」はよくないという理

### おとなたちの支援

ただ「いじめ」問題に関する先の高校生たちの作文から私が受け止めたのは、既存の取り組みから今後、もう一歩、子どもたちの生活実感に踏み込んで、「いじめ」防止等に関して取り組んでいく必要があるのではないかと、というところである。

具体的には、作文から私が理解できたのは、「いじめ」はいじめという「誰かをいじめたり、いじめられたりする関係は嫌だ」ということと、「いじめ」を表現するために

になるほどの不快感や苦痛を与えているかもしれない自分の行為については、「いじる」という別のカテゴリーに置き換え、容認してしまう。そのような心理的な枠組みが当時、子どもたちの側に形成されていたことがうかがえる。このような子どもたちの心理的枠組みをゆさぶる、別の枠組みをどう置き換えることができるか。そこに今後「いじめ」防止に関する取り組みの課題の一つがあるのではないか。

### 「いじめ」のない学校

あらためて言うまでもないが、子どもの人権が尊重される社会づくりという観点から見た場合、「いじめ」のない、誰もが安心・安全に通える学校つ



自分たちはどう行動すればいいのかわからず、よくわからない」ということ。この二つの子どもたちの実感の存在である。だから、もうすぐ子どもたちの間では、「いじめはよくない」とい

くり」ということは、きわめて重要な研究・実践上の課題である。また、マスメディアが伝えるとおり、いわゆる「いじめ」が原因となつての子ども自傷も起きている。自殺や虐待の防止など「ひとりひとりの子どもの命を守る」取り組みは、それ自体が重要な活動であるとともに、他の子どもの人権を守るあらゆる取り組みの出発点でもある。さらに日本の学校における「いじめ」問題は、国連子どもの権利委員会の第一回総括所見(1998年)においても、懸念および状況改善に向けての報告が出されている。そして学校や児童福祉の関係機関等、政府レベル・地方自治体レベル、あるいは青少年育成関連のNPOといった民間レベルなど、さまざまなレベルにおいて、「いじめ」防止や自殺防止等の取り組みが積極的に進められてきた。しているのではないかと、いつと。また、その前提に立って、今後は「いじめを自分たちでどのように防げるか」「いじめが起きたときにどう対応するのか」等、「自分が何をすればいいのかわからない」を、おとなの適切な支援のもとで子どもたちが理解していく必要があるのではないかと、いつと。このことを高校生たちの作文を読みすすめていく中で、私は考えたのである。